



“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE

KuruMobi Tech Expo Online - from Cars to Mobility

RESULT REPORT

結果報告書

2022

2/14 Mon — 2/25 Fri

<https://expo-info.kurumobi.jsae.or.jp/ja/>



ごあいさつ

自動車技術会は、従来の自動車業界の枠組みにとらわれず、自動車以外の技術領域の「知」を学び連携を深め、将来のモビリティに必要な技術と一緒に創って行く、「くるまからモビリティへ」の技術展 ONLINE」を 2022 年 2 月 14 日(月)～25 日(金)* まで初開催いたしました。

今回、初の展示会として **21** 社の一般出展社ページに加え、基調講演・出展社セミナー・マガジン記事など多数のコンテンツをオンライン展示会にて掲載・配信し、**13,912** 名が来場登録、サイト訪問数は延べ **31,852** 件となり、多くの出展社・ご来場者の皆様のおかげを持ちまして、盛況のうちに閉幕いたしました。

本結果報告書は、展示会来場者と出展社の皆様を対象に実施したアンケートの結果を中心に構成されております。

今回の開催結果を踏まえ、次回以降の展示会がより良いものとなるよう努めてまいります。

今後とも、当展示会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

* ご好評につき 2022 年 2 月 19 日(土)～25 日(金)までアーカイブ配信いたしました。

“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE 運営事務局

KuruMobi

CONTENTS

開催結果概要	-----	p.2
来場者データ	-----	p.4
来場者アンケート	-----	p.6
出展社アンケート	-----	p.10
出展社一覧	-----	p.13
基調講演・出展社セミナー	-----	p.14
次回の展示会につきまして		p.16



“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE

KuruMobi Tech Expo Online - from Cars to Mobility

2022.2.14 Mon ~ **2.25** Fri

(2.19~2.25 アーカイブ期間)



出展社数

21社



来場登録者

13,912名



訪問者数

31,852件

※訪問者数は、上記の来場登録者がオンライン展示会へアクセスした訪問数(1日のうち複数回訪れても1カウント)となります。

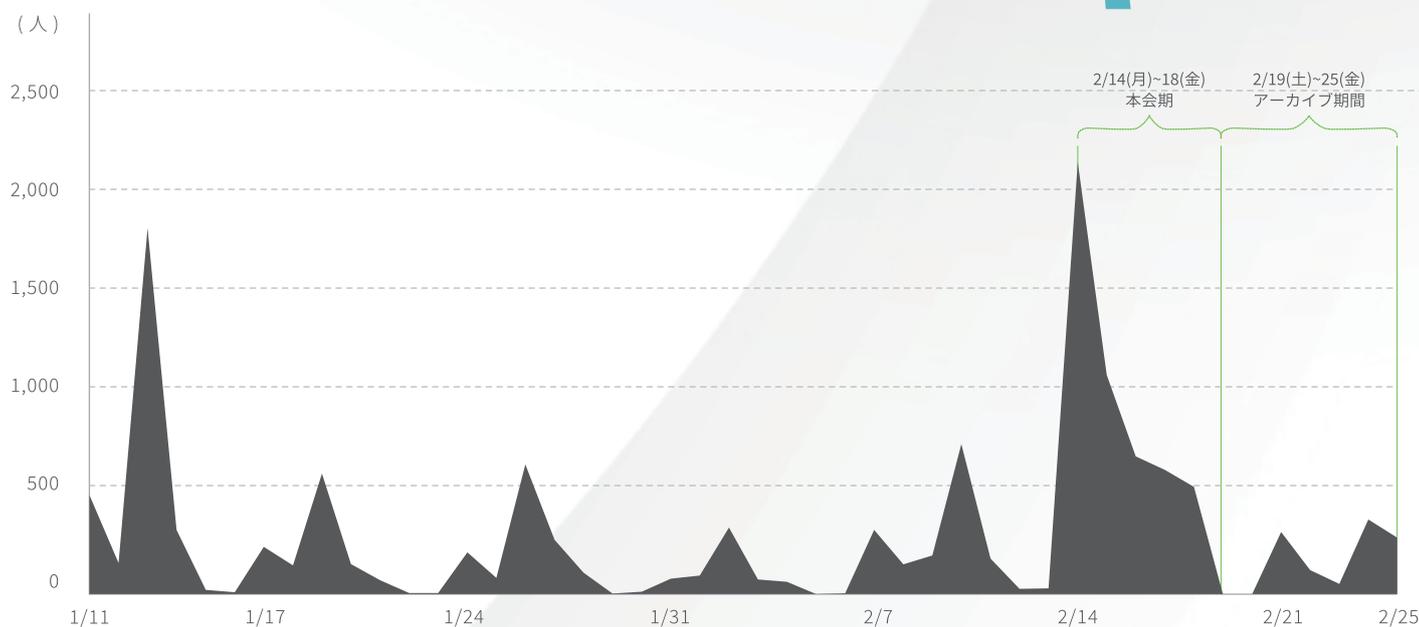
主 催	公益社団法人自動車技術会
協 賛	(公社)計測自動制御学会、(一社)人工知能学会、(一社)電気学会、 (一社)情報処理学会、(一社)JASPAR
来 場 対 象 者	自動車メーカー、自動車部品／電子部品メーカー、二次電池／燃料電池メーカー、通信事業者、ソフトウェア開発者、セキュリティ技術者、ネットワーク技術者、半導体設計者 等
入 場 料	【無料】完全登録制
掲載コンテンツ	・企業・団体一般展示 ・Invited Lecture (基調講演) ・Exhibitors Seminar (出展社セミナー)
特 別 協 賛	トヨタ自動車株式会社

来場登録者数 推移

集計期間：2022/1/11(火)～2/25(金)

オンライン展示会に登録したユーザ数

13,912名



訪問者数 推移

集計期間：2022/2/14(月)～2/25(金)

来場登録者がオンライン展示会へアクセスした訪問数

※1日のうち複数回訪れても1カウントとなります。

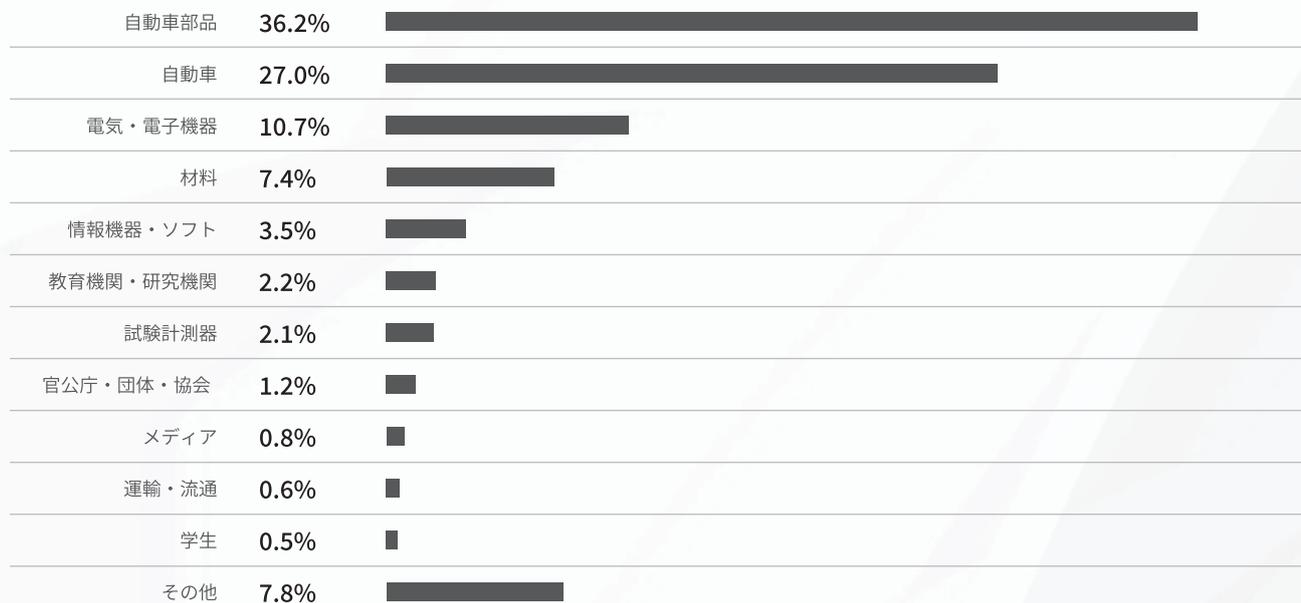
31,852件



オンライン展示会に登録したユーザの全体

有効回答件数：13,912 件

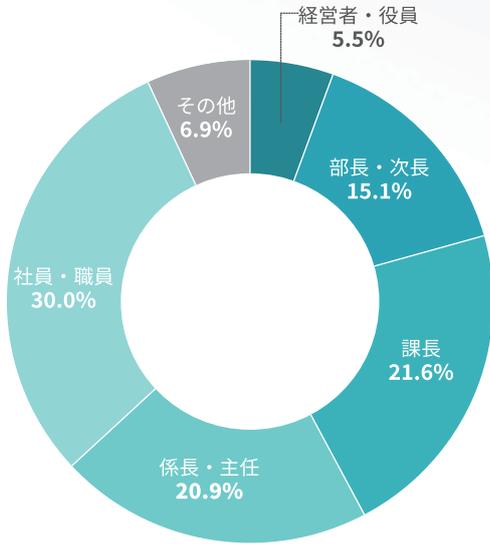
業種



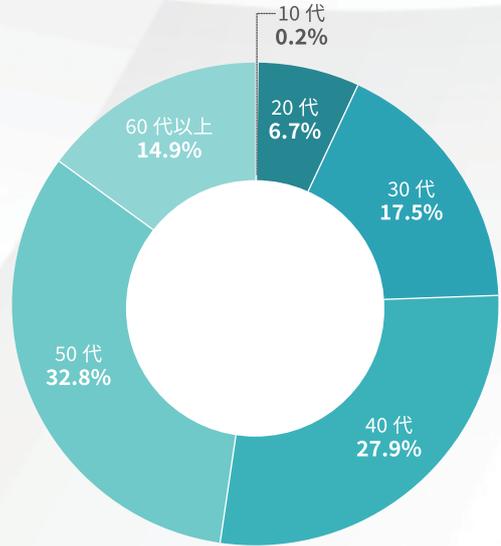
職種



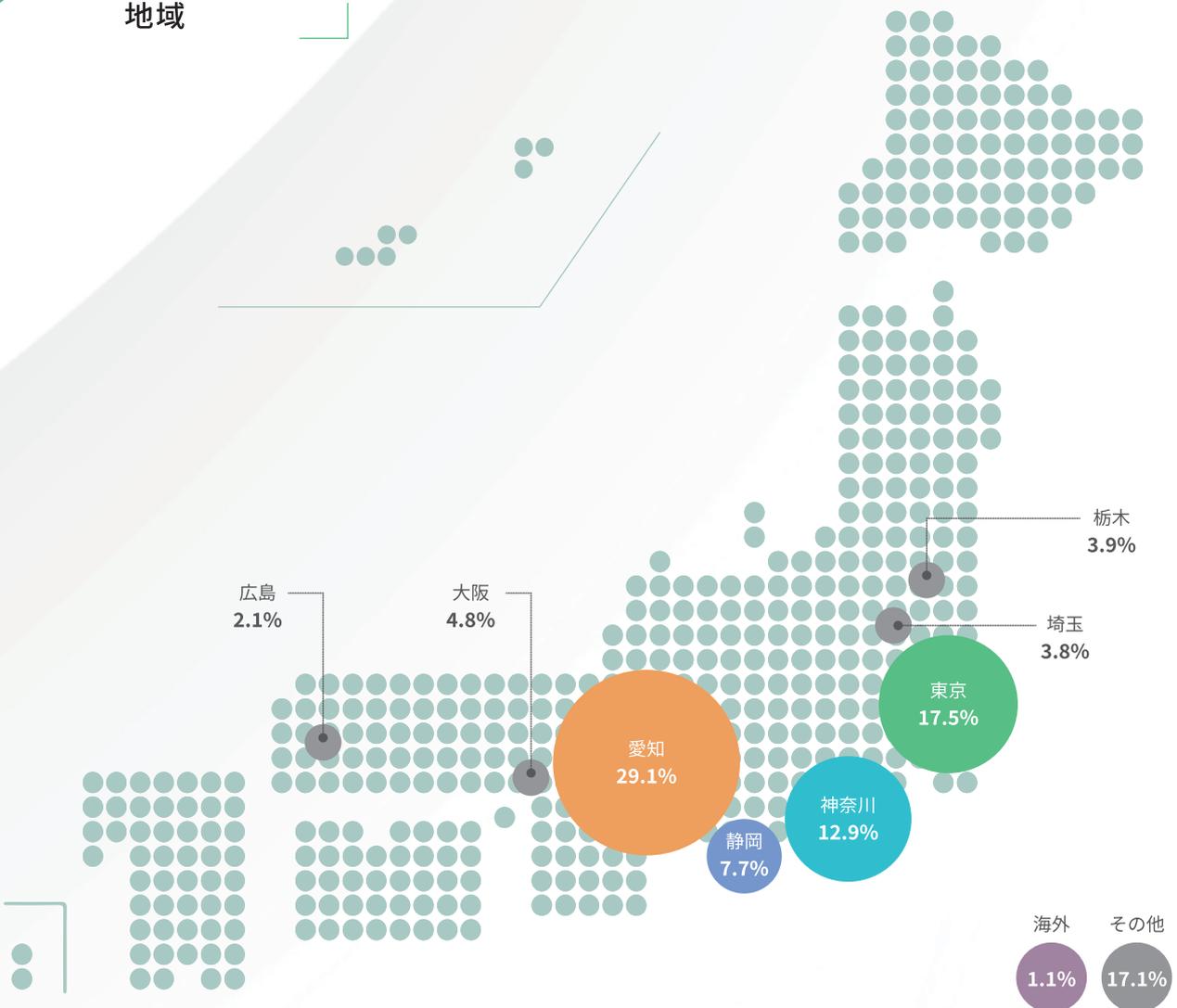
役職



年代



地域



VISITORS' VOICE

来場者アンケート

有効回答件数：1,817 件

目的達成度

極めて役に立った・
役に立った

70.3%

次回展示会への
来場の可能性

96.3%



来場者の声



今回の内容が非常に面白かったので、また同様の内容が聞きたいです。今回は情報を入手するのが遅れ、最終日に少し見ただけだったので、次回はゆっくり時間をかけて見学したいと感じました。



出展製品には詳しい説明動画やカタログも併せて紹介ページがあり非常に分かりやすかったです。いくつか興味のある製品をピックアップし、導入に向けた比較検討会を社内で開催する予定です。



今回はオンラインでしたが、どの展示も講演会も自分にとって、研究活動のモチベーションを上げるもので、大いに参考になりました。今後も感染状況が落ち着いたら、実際の展示会を見に行き製品を体験できるような機会があれば嬉しいです。



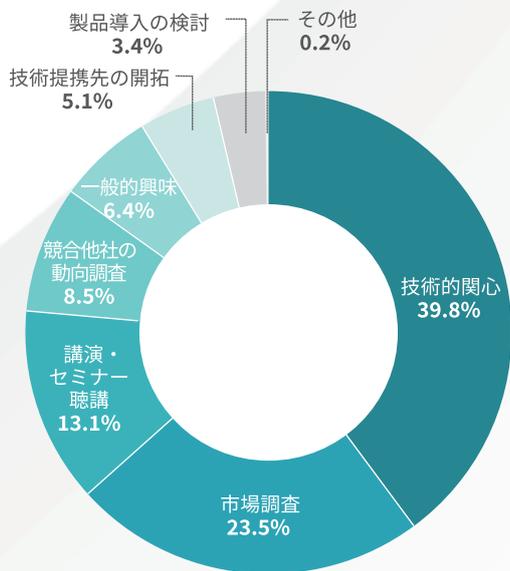
今回のセミナーの内容はどれもレベルが高く、素晴らしいかったです。クルマの技術者から見て知らないことがあってとてもよかったと感じました。ただリアル会場であれば、その場で講演者に質疑応答が出来ましたが、オンラインだと質疑応答がなかったため、Q & A等の時間を取って欲しかったです。

有効回答件数：1,817 件

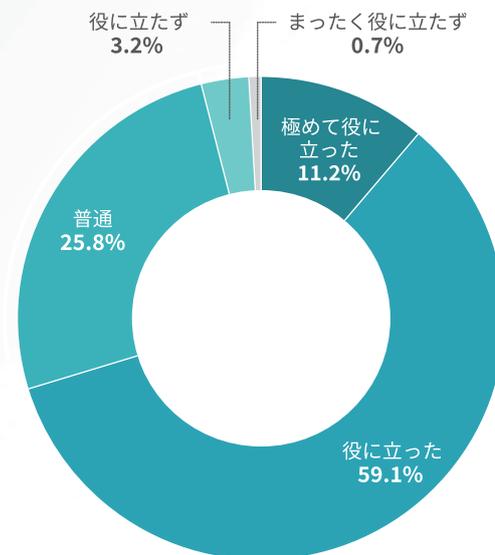
来場のきっかけ

展示会 WEB サイト	30.1%	<div style="width: 30.1%;"></div>
事務局からのメルマガ	25.4%	<div style="width: 25.4%;"></div>
出展社からの案内	17.1%	<div style="width: 17.1%;"></div>
その他の新聞・雑誌・WEB 媒体	5.1%	<div style="width: 5.1%;"></div>
出展社以外の関係者からの推薦	4.8%	<div style="width: 4.8%;"></div>
Automotive Engineers' Guide (AEG)	3.4%	<div style="width: 3.4%;"></div>
自動運転 LAB. HP	0.9%	<div style="width: 0.9%;"></div>
情報処理学会メルマガ	0.6%	<div style="width: 0.6%;"></div>
情報処理学会 HP	0.2%	<div style="width: 0.2%;"></div>
Twitter	0.1%	<div style="width: 0.1%;"></div>
その他	12.3%	<div style="width: 12.3%;"></div>

来場目的



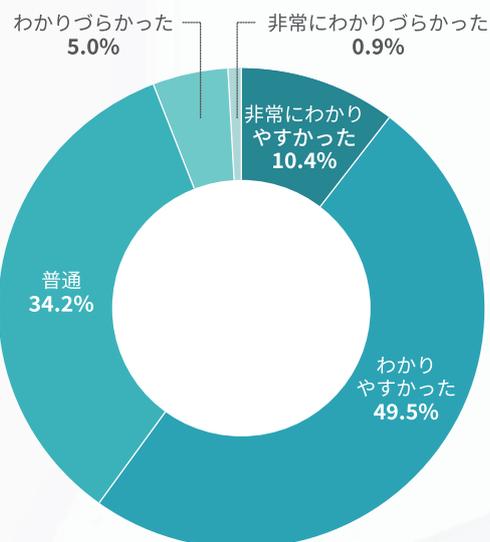
目的達成度



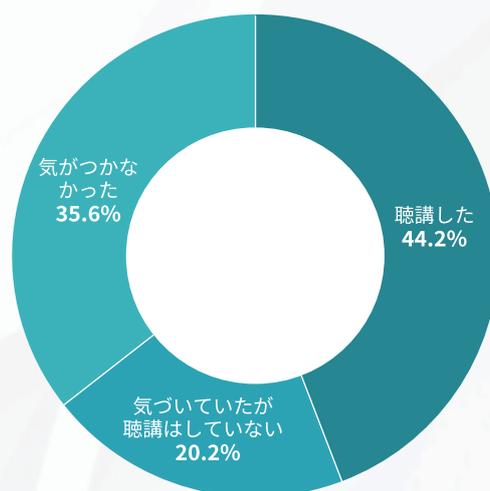
興味のある出展カテゴリ



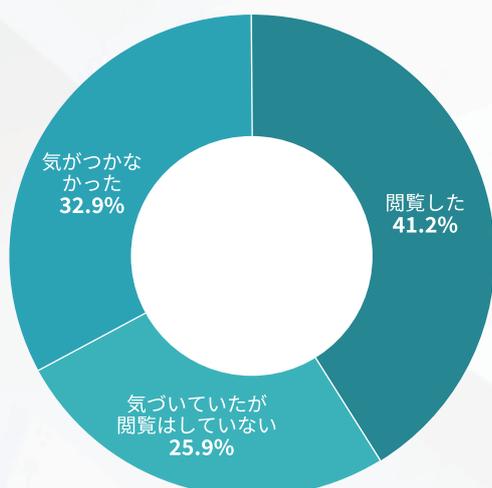
目的のページにたどり着くまで



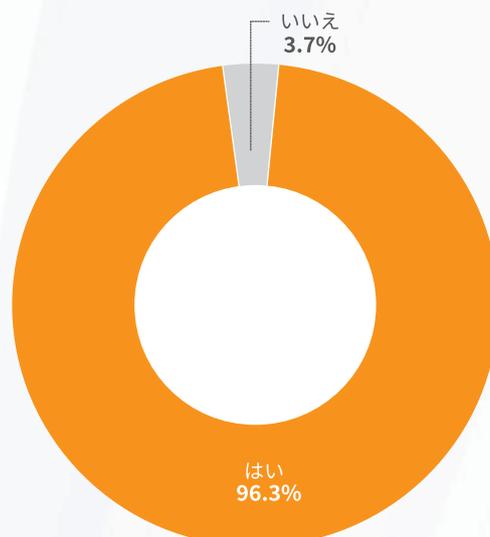
出展社セミナーを聴講しましたか



マガジン記事を読覧しましたか



次回も展示会に来場されますか



今後出展社に期待する展示テーマ・展示製品をお聞かせください。

カーボンニュートラル	● 水素電池の開発現状・動向
レーザー技術	● センサー
半導体	● 人工知能
コネクティビティ	● 車載インフォテインメントシステム
シェアサービス	● 交通事故予防・安全安心
EV 電池のリサイクル	● Maas
EV 充電技術	● 密集都市空間や地方地域への取り組み
EV 向けエネルギーマネジメントサービス	● 環境・エネルギーへの取り組み
EV 用バッテリー	● 自動運転制御関連のシミュレーター、検証方法
SDGs	● ドローン・フライングモビリティ

EXHIBITORS' VOICE

出展社アンケート

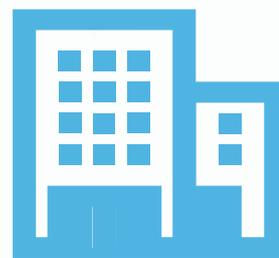
有効回答件数：18 件

今回の展示会
大満足・満足

77.8%

次回の展示会への
出展を検討中

100%



出展社の声



“将来のモビリティに必要な技術と一緒に創って行く”というテーマに賛同し、出展させていただきました。初開催にも関わらず多くの来場者に当社ページをご覧いただき、一定の出展成果が得られたことに満足しています。



オンライン展示会は未経験でしたが、ページの作成や会期中の運営は思った以上にスムーズに行うことができました。当社がアプローチしたい企業や団体の方と接触することができ、リアル展示会と比べても遜色ないイベントでした。

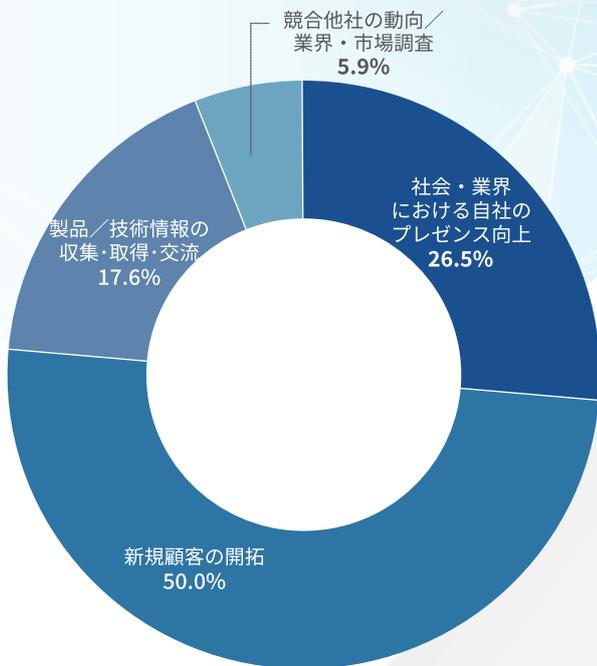


テーマを限定して行ったイベントにも関わらず、様々な業界の方に来場いただけた印象です。特別講演も充実しており、カーボンニュートラルや自律運転の今後の動向について理解を深めることができました。

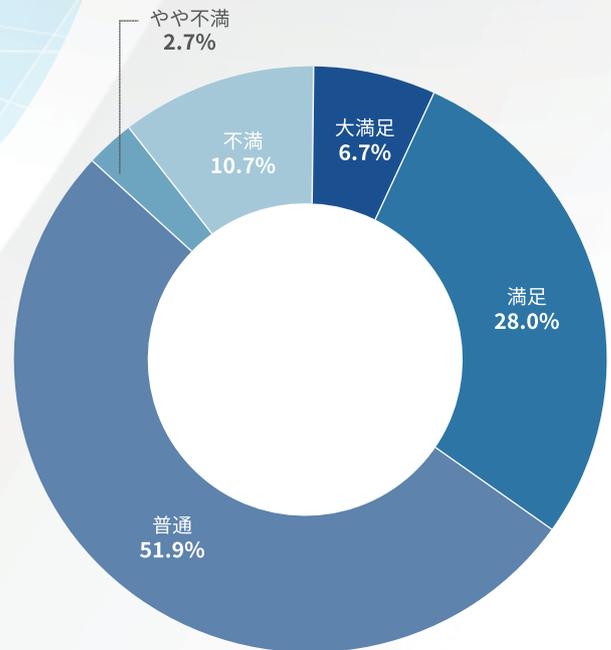


オンラインも流行っていますが、やはり現地で見え触れることも必要ではないでしょうか。ITや無線通信技術等は目に見えるものではありませんが、活用事例を体験できるリアルイベントがあっても良いと思います。

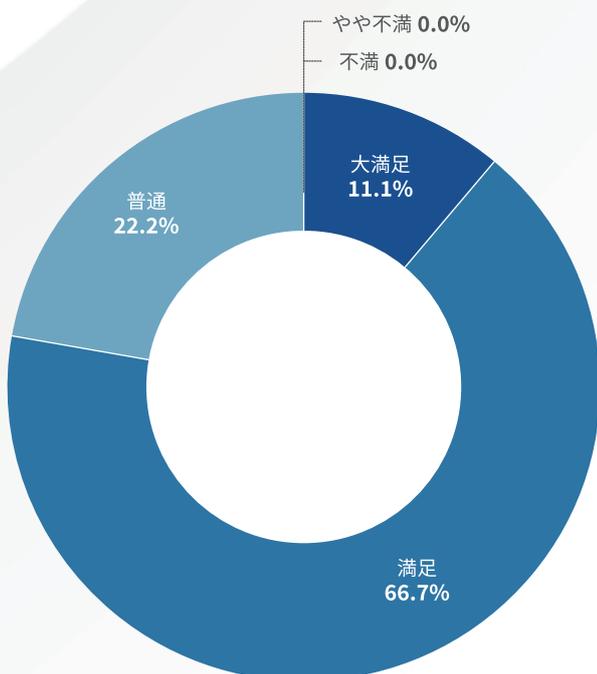
出展目的



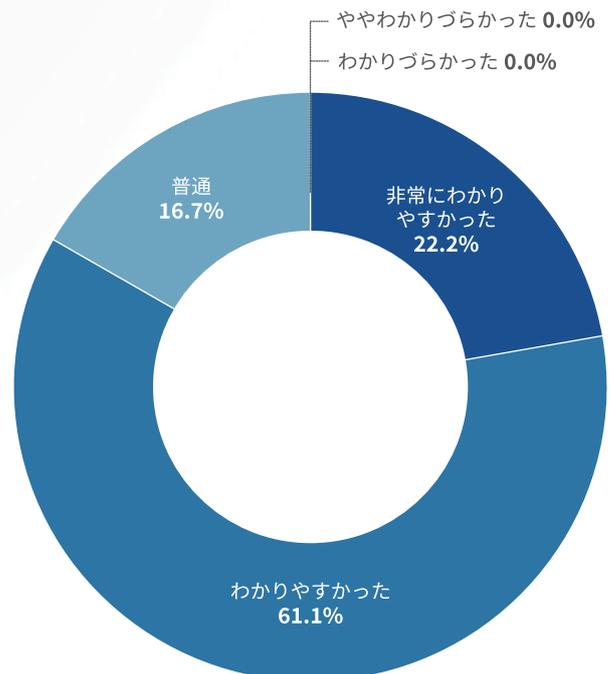
出展目的の達成度



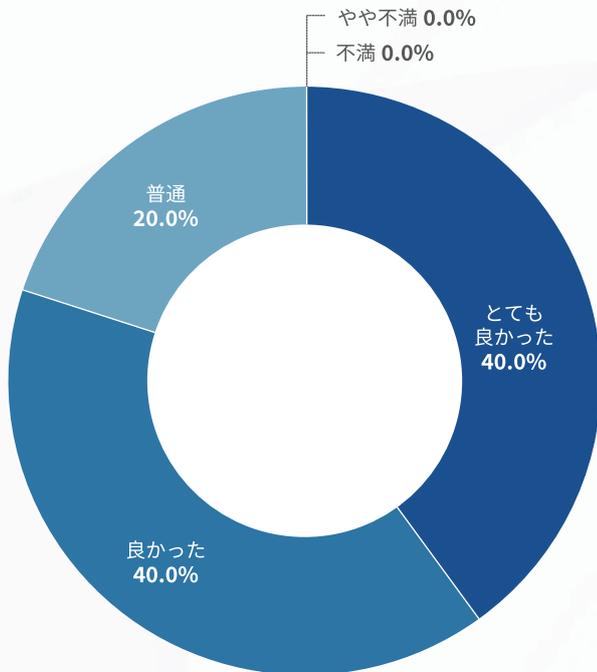
来場者の印象



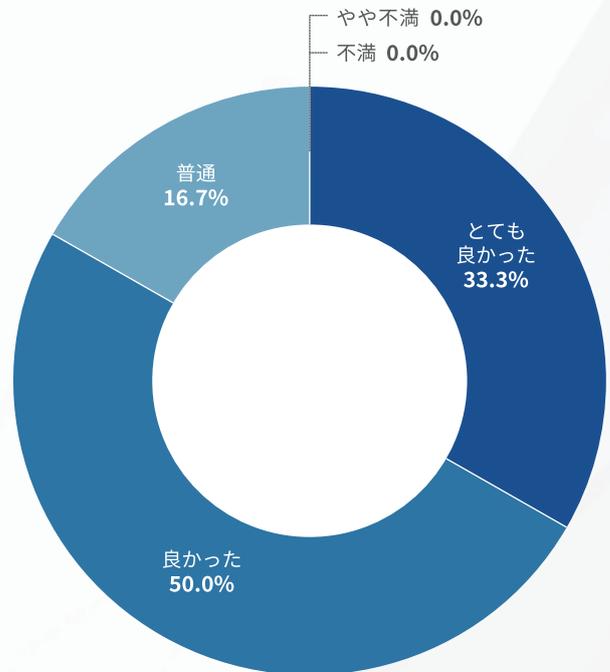
出展社情報ページの構成



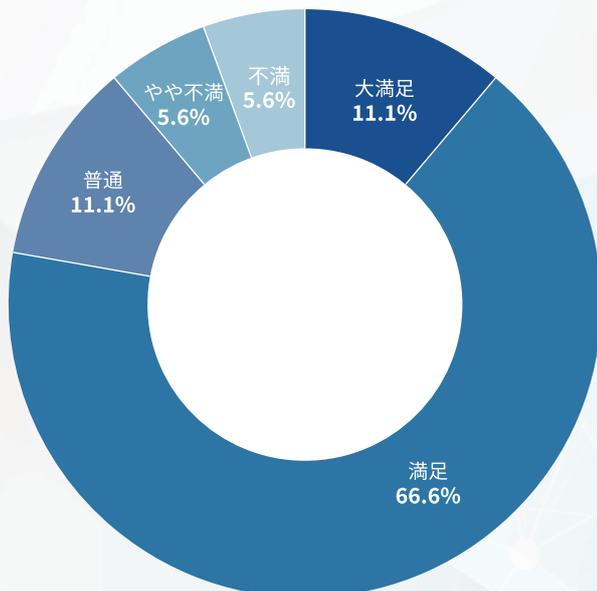
マガジン記事を利用した感想



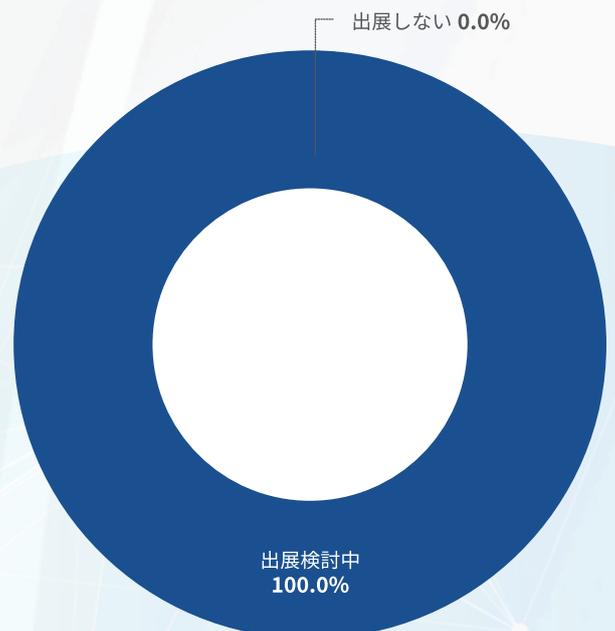
出展社セミナーを利用した感想



オンライン展示会そのものの評価



次回の展示会出展の可能性に関して



初開催の“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE は、**21** 社にご出展いただきました。

50 音順掲載

アルテアエンジニアリング株式会社

コネクテッド 電動化 設計・開発

Witzenmann Japan 株式会社

電動化

株式会社 AIS 北海道

AI 電動化 設計・開発

NOK 株式会社

コネクテッド 電動化

キャノン IT ソリューションズ株式会社

コネクテッド IoT AI 設計・開発

株式会社くま力学研究所

AI

セプトン

自動運転

株式会社テクトロニクス & フルーク

自動運転 コネクテッド 電動化 設計・開発

テクマトリックス株式会社

自動運転 IoT AI 設計・開発

東洋ドライループ株式会社

自動運転 コネクテッド IoT 電動化 設計・開発

株式会社日本触媒

電動化

日本ガイシ株式会社

IoT

日本電計株式会社

自動運転 コネクテッド IoT 設計・開発

New Relic 株式会社

コネクテッド IoT

古河電気工業株式会社

自動運転 電動化

株式会社堀場製作所

自動運転 コネクテッド IoT AI 電動化 設計・開発

本田技研工業株式会社

自動運転 コネクテッド AI 電動化

三菱ケミカル株式会社

自動運転 コネクテッド 電動化

株式会社明電舎

自動運転 コネクテッド 電動化 設計・開発

レッドハット株式会社

コネクテッド

ロッチオーニ・ジャパン株式会社

電動化

Invited Lecture 基調講演

5G とくるま

配信期間：2022/2/14(月) 10:00-23:59 & アーカイブ期間

自動運転の実現に向けた情報通信の動向と総務省の取組



総務省
総合通信基盤局 電波部 移動通信課
高度道路交通システム推進室 室長
井出 真司氏

交通事故削減・渋滞緩和、移動弱者支援や快適な移動空間の実現等、自動運転に対する社会の期待は高まっています。また、情報通信技術の進展は目まぐるしく、自動運転の実現においても大きな役割を果たすものと見込まれています。本講演では、通信行政の観点から、5Gやその先の新しい無線通信技術の動向、自動運転社会の実現に向けた総務省の取組を、国際動向も交えてご紹介いただきました。

第一部：セルラー通信技術を用いたITS・自動運転の高度化に向けた課題調査報告書更新概要

第二部：C-V2Xの実用化に向けたNTTドコモの取り組み



ITS情報通信システム推進会議
高度化専門委員会 セルラーシステムTG 主査
株式会社NTTドコモ 6G-IOWN 推進部
中村 武宏氏

第一部「セルラー通信技術を用いたITS・自動運転の高度化に向けた課題調査報告書更新概要」

ITS情報通信システム推進会議 高度化専門委員会 セルラーシステムTGでは、セルラーV2Xの有効性評価や課題の対応検討の加速を目指し、想定ユースケースや課題等を整理した報告書を作成し、2021年に更新版を公開しました。本講演ではその概要を説明いただきました。

第二部「セルラーV2Xの実用化に向けたNTTドコモの取り組み」

セルラーV2X技術を活用したコネクテッドカー社会の実現に向け、NTTドコモでは5Gネットワークを用いた実証実験や、5.9GHz帯での実証実験等に取り組んでいます。本講演では同社の主なセルラーV2Xに関する取り組み状況を説明いただきました。

スマートモビリティの実現を支える5G/6G



東京工業大学
工学院
教授
阪口 啓氏

本講演では、くるまが自動運転化されコネクティッドされ、さらにその先にあるスマートモビリティのサービスを実現するために必要となる、5G/6Gそして人工知能やデジタルツインを内包する超スマート社会サービスプラットフォームを紹介いただきました。

電力とくるま

配信期間：2022/2/15(火) 10:00-23:59 & アーカイブ期間

電力システムにおけるEV利用に向けた取り組み



一般財団法人 電力中央研究所
グリッドイノベーション研究本部
上席研究員
八太 啓行氏

将来の電力システムでは、電気自動車を活用した電力需給調整が期待されています。電力中央研究所によるEVアグリゲーションによる需要創出量の試算など、電力システムにおけるEV利用に向けた取り組みについて講演いただきました。

業界大手企業のトップエンジニアや専門家・有識者を招き、将来のモビリティに必要な技術分野と現状への課題、トレンド、展望等について語っていただきました。会期中に各日で異なるテーマの基調講演を配信いたしました。

CHAdEMOが目指すイノベーション



CHAdEMO 協議会
会長
姉川 尚史氏

EV普及の難しさは、今も昔も航続距離と電池コストのジレンマに由来しています。CHAdEMOは公共の急速充電を実現するために作られた規格で、その狙いは、電池の搭載量を抑制してユーザー負担の軽減することにあります。その実現のためには、自動車、充電器、電池、電気、電力などの各業界さらにはユーザーの協力も必要です。特にEVを使ったV2Xの実現は、電力の再生可能エネルギーへの転換の成否にも直結するもので、業界を超えた協力によってそのイノベーションが実現できます。

Vehicle Grid Integration とその先にあるスマートシティ



大阪大学
大学院工学研究科モビリティシステム共同研究講座
特任教授
太田 豊氏

運輸電動化による自動車・電力両業界の協調やシステム統合の意義と動向を解説します。その先にある人々のくらしとモビリティの格段の利便性向上を実現するeモビリティが創るスマートシティの姿を描く活動を紹介いただきました。

AI とくるま

配信期間：2022/2/16(水) 10:00-23:59 & アーカイブ期間

自動運転の民主化



東京大学大学院 情報理工学系研究科 准教授
株式会社ティアフォー 創業者 兼 CTO
加藤 真平氏

様々な組織・個人がその発展に貢献でき、世界中の人々がその恩恵を享受できる、Autowareを中心としたエコシステムによって実現される「自動運転の民主化」についてお話しいただきました。

AIが紡ぐスマートモビリティの世界



札幌市立大学
学長
中島 秀之氏

AIの概略を説明し、その社会システムへの応用を考えます。その一つとしてモビリティの現状と未来像を描きます。SAVSと呼んでいるAI技術を活用した新しいモビリティのプラットフォームは自動運転と相性が良いです。

CASE時代のヒトとクルマの関わりを支えるAIとデータとは



株式会社ACES
代表取締役
田村 浩一郎氏

AIとデータは、自動運転技術に限らず、多様な領域でイノベーションをもたらす可能性があります。今回は、特に「ヒトとクルマの関わりを支えるAI」の概要と役割を解説いただきました。

インフラとくるま

配信期間：2022/2/17(木) 10:00~23:59 & アーカイブ期間

自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿（構想）



東日本高速道路株式会社
管理事業本部 ITS 推進部 ITS 推進課
課長
市川 暢之氏

高速道路を取り巻く社会情勢の変化に対応し、引き続き将来の自動車交通の更なる発展をけん引していくべく、NEXCO東日本が目指す高度なモビリティサービス提供の方向性を構想としてとりまとめたものを報告いただきました。

走行中非接触ワイヤレス給電舗装について



東亜道路工業株式会社
技術部
技術営業部長
阿部 長門氏

電化を意識した場合の非接触給電舗装の日本の現状、欧米で検討されている電化道路システム（ERS）の実証実験の成果や電気マネージメントシステム（EMS）の成果についてまとめました。また、国土交通省道路局関連の道路法の改定による自動運転補助施設の設置、カーボンニュートラルに関する成長戦略としての取り組みなどについても説明いただきました。

スマート都市インフラの国際標準化動向



株式会社日立製作所
研究開発グループ 技術戦略室 チーフアーキテクト室
チーフアーキテクト
木原 隆宏氏

スマートシティの概念が登場してから10年以上が経過し、国際標準の世界においても関連規格の策定が行われてきましたが、近年の環境課題の状況とデジタル技術の普及に伴い、規格策定の動きが活発化しています。本講演では講演者が議長を務めるISO/TC 268/SC 1 “スマート都市インフラ”を中心に、スマートシティを巡る国際標準化の動向と自動車業界との関連について紹介いただきました。

LCA とくるま

配信期間：2022/2/18(金) 10:00~23:59 & アーカイブ期間

自動車のライフサイクル評価の国際的動向



東京都市大学
環境学部
教授
伊坪 徳宏氏

欧州では自動車や自動車部品のカーボンフットプリント義務化に向けた検討が行われています。本講演では世界における自動車のLCA研究の進捗について整理しつつ産業や政策利用における今後の国際的な展望について解説いただきました。

カーボンニュートラル社会とくるま



東北大学
工学研究科
教授
中田 俊彦氏

自動車の機能が変わると、自動車の性能指標が変わります。時間の境界が走行時からライフサイクル全体に拡がり、空間の境界が発電機器まで遡ります。クルマの価値のパラダイムシフトについて考えます。

走るレアメタル（自動車用レアメタル）の生産に伴う環境破壊とリサイクルの重要性について



東京大学
生産技術研究所
所長・教授
岡部 徹氏

今や、自動車は走るレアメタルの塊となっています。しかし一方で、レアメタルの採掘や製造に伴い、海外では環境破壊が進んでいます。本講演では、レアメタルの現状と課題について概説し、レアメタルに対する誤解や偏見、さらには、日本では知ることが出来ない“裏の問題”についても紹介いただきました。

Exhibitors Seminar 出展社セミナー

新技術領域に求められる課題や開発手法、製品技術等について出展社が持つ事例も交え発表いただきました。

配信期間：2022/2/14(月)~2/25(金)

日本ガイシの高耐熱リチウムイオン二次電池「EnerCera®」～過酷な車載環境にも対応～	日本ガイシ株式会社
お客様に使ってもらえるモビリティサービスへ その開発に必要な3つのポイント	New Relic 株式会社
新型 Blue-IR ハイブリッドレーザ BRACE による xEV 向け純銅レーザ溶接技術	古河電気工業株式会社
電界結合方式ワイヤレス電力伝送	古河電気工業株式会社
古河電工の車載周辺監視レーダ ～どんなときにも安全・安心を全ての人に～	古河 AS 株式会社
古河電工の車載用鉛バッテリー状態検知センサ (BSS®)	古河 AS 株式会社
クラウドベースの劣化モデリングを用いた Li イオンバッテリーの急速充電の実現	株式会社堀場製作所
コネクテッドサービスをコンテナ・API で差別化する！理想的プラットフォームの作り方	レッドハット株式会社

次回の展示会につきまして

“くるまからモビリティへ”の技術展 ONLINE

次回も出展社様・来場者様にご満足いただける ONLINE 展示会を目指し、開催に向けて調整を進めております。

出展申込スケジュールおよび会期スケジュールに関しましては、決定次第公式サイトにて発表させていただきます。

公式サイトはこちら👉 <https://expo-info.kurumobi.jsae.or.jp/ja/>

【主催】

公益社団法人自動車技術会

【運営事務局】

株式会社大成社

〒104-0041 東京都中央区新富 1-15-3 新富ミハマビル 6F

☎ 03-5542-0865

✉ kurumobi@expo.taiseisha.co.jp

🌐 <https://expo-info.kurumobi.jsae.or.jp/ja/>